
緋弾のアリア-黒い転生者

TR

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

緋弾のアリア - 黒い転生者

【Zコード】

N5403BA

【作者名】

TR

【あらすじ】

まあそんなこんなではじまるよつ

プロローグ（前書き）

てつてれー！・・・すいません、ちょっと言つてみたかっただけです。というわけで緋弾のアリアの一次創作をノリで作つてみました。作者は black catとか好きな厨房なんで武器とかでちょくちょく入れていこうかとか思つてます。初投稿なんでよくわからないところもあるかも知れませんがまあ、気軽にこいつの駄文見て笑つてやろう的なノリで見ていただけると嬉しいです。それではノシ

プロローグ

「ひまつ」

田が覚めて第一声がこれだった。

「・・・・はあ、何言つてんだオレ」

喉が酷く渴く、汗ばんだシャツを脱ぎ捨て、冷蔵庫の扉を開ける。

ペシガボツンと一つ

「マジで何もね・・・・

仕方ないので未開封のペシを勢いよくあける。

ブショウツと心地良い音を起てたペシを口元へ運ぶ。

ゴクツゴクツ、喉に炭酸特有の刺激が刺さる。

「あ～、やっぱ朝から炭酸は無いわ

寝室を出てリビングに向かおうとする、「you've
gat a mail.」、けたたましいメールの着信音が鳴り響

く。

が、面倒なのでそのままリビングへ。

背凭れがやや低めの椅子に腰を下ろすと、また眠気が襲ってきた。

え？ オレは誰だつて？ こいつは失敬名乗つてなつかつたな、オレは「雑賀海斗」、「ごく普通の高校生で、趣味はギターとかエアガン集めとか・・・まあ色々あるな。特技は銃を見たら種類、系統、口径、発射機構など、まあその銃のさまざまなことが判るというものの、べつにオレヤングガンとかじゃねえし、この特技として意味無いけど・・・とにかくそんな人間なんだ。

と、自己紹介を終えたところでもまた眠気が襲つてきた。

「だああー、クッソ眠くて仕方ねえ・・・散歩にでも行くか

適当に身支度をすると街にむかって歩き出した。

（一十分後）

街に到着、まあ街と言つかかなりの大都市だが、ここいら辺はよく知っている、小さい頃からよく来た場所だ、まあそれは置いといて、どこへ行こうか？

1 ゲーセン

2 楽器屋

3 ライブハウス

4 喫茶店

とりあえず3と4はない、この時間はまだ開いていない。ちなみに今日は日曜日で現在時刻は10時ジャスト、なぜか楽器店は開いている。が、生憎ギターは持ってきていないということでゲーセン、君に決めた！！

まずは千円をダイナミックに両替、硬貨が十枚出来た、さあいぐぜと言わんばかりに某海岸を走るレーシングゲームに連続イン、開店早々だというのにほかの三席は埋っていた。

適当にタイムアタックを選択ちなみに某首都の高速のランキングの大半はオレの34R一色、青いフォルムに黒のカーボンボンネットが映える、しばらく走っていると後ろにはギャラリーができていた。

「いりやい」と見せねーとな」

くらくらと笑いながらギアを6速に入れる、流石、オレのGT-Rは世界一・・・スマソ、とか思つてゐる内に時速341キロに到達ま、楽勝だな・・・。

～一時間後～

連ゴインした分のクレジットを使い果たし、乱入にも滞りなく勝利したオレは帰る前に銀行に行って金を引き出そうとしていた、ATMを弄つているその時、

パン！！

乾いた銃声が耳を貫く。

プロローグ（前書き）

長くないちまたのプロローグ

プロローグ2

乾いた銃声が耳を貫く。

「てめえらおとなしくしゃがれえ！！」

比較的低い声を漏らすそいつは、十中八九強盗に間違いない、いやむしろ強盗より注目すべきはその強盗の手元、そう、その手には拳銃が握られていた。

「トカレフTT-33通称トカレフ、ソビエト連邦陸軍が1933年に制式採用した軍用自動拳銃で、正式名称トウルスキイ・トカレヴァ 1930／33、結構前からロシアから密輸されている拳銃だな」

ボソツと呟いてみるこれは癖でもある。

安価で威力もそこそこあるが、比較的弱い部類の銃である事には変わりない、オレは確証も無く勝てると思った、否「思つてしまつた」

オレの近くで子供が泣き出した、するとその強盗は威嚇射撃のつもりだったのだらう、泣き叫ぶ子どもにむかって、発砲した。

トカレフから吐き出された鉛の塊は、子供の右

腕を貫通した。

オレの中で何かが切れた。

声にならない声が耳を劈く、その瞬間

オレは咄嗟に強盗に向かつて駆け出した、勝てる、一いつになら
勝てる、構え方もまるで素人だ、サバゲーを積み重ねてきたオレが
負けるわけが無い、自分に言い聞かせるように。

「つ！テメHこの銃が見えねえのか！？」

「そう言ひながら銃口をオレに向けてない時点でお前の負けを」

オレはそう言いながらヤツの腕を掴みトカレフの安全装置を起動
した。

安全装置の働いたトカレフなど恐れるに足りない、オレは足を振
り上げてトカレフを蹴ろうとした、その瞬間、男の右腕には二十セ
ンチ程の刃渡りのナイフがあった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n5403ba/>

緋弾のアリア-黒い転生者

2012年1月14日23時02分発行